What's on Kyodokodo

2009.12.4
No.10

いのちをまもる
PARTNERS
医療安全全国共同行動

◆成功事例・参考事例を募集しています
→http://kyodokodo.jp/ トピックス内
◆質問・提案をお寄せください
→advice@ppscamp.net
◆HSMR登録病院・HSMRモニター病院、募集中
HSMR登録病院 （募集期間を2010年1月末まで延長します）
→http://kyodokodo.jp/hsmr.html
HSMRモニター病院
→https://kyodokodo.jp/partners/index.php

CONTENTS

1 第21回“全米医療の質改善フォーラム”開催
＜オンデマンド参加登録希望者を募集します＞
2 フォーラム・セミナーのご案内
3 支援チームからのひとことアドバイス（行動目標3a）
4 医療安全全国フォーラム・報告第2弾！
5 医療安全全国共同行動連絡会議が開催されました

1 第21回“全米医療の質改善フォーラム”開催
＜オンデマンド参加登録希望者を募集します＞

来る12月8日（火）・9日（水）にアメリカで第21回“全米医療の質改善フォーラム”が開催されます。現地参加できない方々のために、インターネットから参加できるオンデマンド・プログラムが用意され、もっとも重要な9つのプログラムに、フォーラムでの講演の直後から1週間までの間、インターネットからいつでも何度でもアクセスできるようになりました。詳細は医療の質・安全学会ホームページ（http://qsh.jp/）よりご覧ください。

第21回“全米医療の質改善フォーラム”

会期: 12月8日（火）・9日（水）
場所: アメリカ、フロリダ州オーランド
主催: 医療の質改善研究所（Institute for Healthcare Improvement）

2 フォーラム・セミナーのご案内

8目標に関連するセミナー、シンポジウム、講習会

平成21年度　医療安全に関するワークショップ
～今みつめなおす、医療人としての姿勢～（すべての目標に関連）

日時: 12月12日（土）　11:00～18:10
会場: 石川県地場産業振興センター 本館 大ホール
主催: 厚生労働省 東海北陸厚生局
*詳細は こちら または http://kyodokodo.jp/event_list.html からご覧ください。

弾性ストッキング・コンダクター講習会（目標2に関連）

日時: 2010年1月23日（土）　会場: アスピラート［防府市地域交流センター］（山口県）
日時: 2010年3月20日（土）　会場: 京都会館大会議場

京都講習会のホームページが開設されましたので、ご覧ください。
http://us-lead.com/sscc-knk/index.html

主催: 日本静脈学会弾性ストッキング養成委員会
http://www.js-phlebology.org/japanese/sscc/index.html

共同行動パートナーズの活動

NEW! 第16回近畿臨床工学会・特別講演「医療安全全国共同行動」

講師: 小山信彌(医療安全全国共同行動推進会議委員・日本病院団体協議会議長)
日時: 12月12日(土) 16:45〜18:00
会場: 京都府民総合交流プラザ　京都テルサ　テルサホール
主催: 近畿臨床工学技士会連絡協議会
*詳細は第16回近畿臨床工学会HP(http://www.kyoacet.jp/kinki/)をご覧ください。

NEW! 第3回「新しい医療のかたち」賞決定!!

医療の質・安全学会の「パートナーシッププログラム」(行動目標8:患者・市民の医療参加に関連)として募集された「新しい医療のかたち」賞は、以下の3団体に決まりました。

1.患者を中心とした取り組み部門:健康と病いの語りデータベースの活動
　特定非営利活動法人「健康と病いの語りディペックス・ジャパン」
2.医療者・医療機関を中心とした取り組み部門:医療機関における真実説明の取り組み
　医療事故:真実説明・謝罪普及プロジェクト／全国社会保険協会連合会
3.地域社会の取り組み部門:ホームホスピス「かあさんの家」の活動
　特定非営利活動法人ホームホスピス宮崎

*詳細は医療の質・安全学会ホームページからご覧ください。
http://qshpsp.giving.officelive.com/default.aspx

3 支援チームからのひとことアドバイス

行動目標3a　危険手技の安全な実施(経鼻栄養チューブ)

簡単そうで実は危険な手技 — 経鼻栄養チューブ挿入 —

●滋賀医科大学医学部附属病院医療安全管理部　坂口　美佐

医療安全全国共同行動"いのちをまもるパートナーズ"の行動目標3「危険手技の安全な実施」には、経鼻栄養チューブと中心静脈カテーテルの2つの項目があります。「えっ、経鼻栄養チューブの挿入が危険手技?」と疑問に感じる方もいらっしゃるかと思います。でも、経鼻栄養チューブに関連した医療事故は少なくありません。

なぜ、経鼻栄養チューブが危険なのでしょうか。それは、チューブが誤って気管支・肺に挿入された状態で栄養剤を注入することにより、肺炎を引き起こし、死亡に至ることがあるからです。また、チューブが肺を突き破って胸腔内に入ってしまった事例も報告されています。

経鼻栄養チューブが正しく胃に入っているかどうかを確認するには、どうしたらよいでしょうか。以前から、チューブに空気を注入しながら聴診器で「ゴボッ」という音を聴く方法が

広くおこなわれていましたが、この方法だけで確定判断とするのは危ないということがわかってきました。英国では「空気注入音の聴診で確認してはいけない」という注意喚起がされています。

支援チームでは、より確実な方法として、X線撮影、pH測定をとり入れたマニュアル作りを推奨しています。また、経鼻栄養チューブの安全管理は、「誤挿入ハイリスク患者の識別」や「上手なチューブ挿入法」なども含めて、包括的に考えていく必要があります。一見シンプルな手技のようでいて、実は奥が深いのです。まだエビデンスの少ない領域ですが、ヒト、モノ、そして技術といったさまざまな面から改善できるところがきっとあると思います。パートナーズで情報交換しながら、みんなで取り組みを進めましょう。

4 医療安全全国フォーラム・報告第2弾!

11月23日(月)、東京ビッグサイトにおいて医療安全全国共同行動“いのちをまもるパートナーズ”が主催する医療安全全国フォーラムが開催されました。報告第2弾として各プログラムの内容報告を一部お届けします。

熱気にあふれたワークショップ── 支援チームからの報告

●目標1:危険薬の誤投与防止

ワークショップ「目標1」は、13:00より東京ビッグサイト607号室でおこなわれた。本ワークショップには全国より医師、薬剤師、看護師など計百数十名の出席があり、たいへん盛況なワークショップとなった。

総合司会は小清水赤十字病院内科の菅野隆彦先生、座長は武蔵野赤十字病院呼吸器外科部長の矢野真先生と仙台医療センター統括診療部長の齋藤泰紀先生が担当された。

最初に、行動目標1支援チームの新岡丈典先生(弘前大学医学部附属病院医療安全推進室)より、行動目標1の基調講演があった。4つの推奨対策およびチャレンジ項目についての簡潔かつわかりやすい解説と、これまで支援チームに寄せられた質問の回答が紹介された。

次に、事例発表として推奨対策1～4について各々参加施設からの発表があった。

推奨対策1については新潟県立六日町病院薬剤部の清水靖先生から報告された。同院は175床で電子カルテやオーダリングシステムは導入されていないが、研修会や危険薬アンケートなどを介して職員の危険薬に関する知識を啓発していることなどが報告された。IT化されていない病院にとって非常に参考になる発表であった。

推奨対策2については宇都宮社会保険病院薬剤部の神山真由美先生から報告された。同院では高濃度カリウム塩や高濃度の塩化ナトリウム注の病棟配置の廃止を5年前にすでに実施されており、また、プレフィルドシリンジ製剤の導入にあたっての過程や運用上の工夫点などが詳しく示された。

推奨対策3については国立国際医療センター戸山病院医療安全管理室の菊池邦子先生から報告された。同院のインシデント報告の分析結果を踏まえた様々な類似薬の誤認防止対策が具体的に示され、大変参考になる発表であった。

推奨対策4については武蔵野赤十字病院薬剤部の芝裕美子先生からの発表があった。この発表では注射指示の標準化対策のうち、特に麻薬の指示の標準化に関してその苦労した点や工夫などの発表があった。

すべての発表が終わった後、発表者に前に出ていただき、座長、支援チームアドバイザーを交えて意見交換がおこなわれた。その中でテスト形式は危険薬の知識を付けるには効果が高いが、「テスト」というと心理的に躊躇が入るので「アンケート」とするのが良い、対策を病院規模で実施するにはインシデントや事故が発生したときこそ取り組みやすいなどの意見が出された。

●目標3b：危険手技の安全な実施 ── 中心静脈カテーテル

行動目標3bのワークショップは15:00から17:00と、遠方からの参加者にとっては、翌日の業務も考えると若干つらいスケジュールでありましたが、会場ほぼ満席の約60名の方にご参加いただきました。

これまで約1年半にわたってキャンペーンを展開してきたなかで、CVCの安全な穿刺の普及に取り組んでこられた諏訪中央病院の小林義典先生と公立陶生病院の長谷川隆一先生に2施設の事例発表を聞き、その後にディスカッションをおこないました。事例発表病院の取り組みのなかで「これならうちでもできる!」と思った対策はなにか、また「これはうちでは難しい」と思ったことはなにかを意識していただくことで課題を持ち帰っていただくことを想定したアンケートを利用し、それを記入していただきながら参加していただきました。

支援チームからは佐久総合病院の渡部修先生、川崎病院の井上善文先生にもお越しいただき、カテーテル管理の具体的な内容や研修会体制に関する有用なコメント、アドバイスを聞けたと思います。諏訪中央病院、公立陶生病院両施設とも基礎データをしっかりと取られており、これからの改善努力の具体的成果が期待されます。

病院規模の大小にかかわらず、まずは実態を数字で知ることの重要性は再度実感し、CVC記録票の普及のよい動機付けとなったのではないでしょうか。また具体的にはCVC適応のこと、研修会のこと、認定医制のことなどなど、手技だけでなく安全体制をどうしていくかという組織運営の観点から多くのヒントが得られたのではないかと感じました。時間の制約もあり、ディスカッションに多くの時間を取ることができず残念ではありましたが、その後の回収されたアンケート結果からも、「具体的な取り組みがわかって良かった」というご意見をいただき、主催者側としては嬉しく思います。

今回のお土産第1位は「スリーアウトチェンジ」でした。多数回穿刺を回避するキーワードとして今後普及する予感です。今回のアンケートの集計から各施設で悩んでいるポイントをさらに抽出し、今後の共同行動の課題としたいと考えています。

●目標4：医療関連感染症の防止

目的：医療関連感染予防の徹底について実践から学ぶ（新型インフルエンザを含む）
司会：満田年宏（横浜市立大学附属病院感染制御部部長　準教授）
　　櫻井滋（岩手医科大学附属病院医療安全部感染対策室長）

「セッションI.医療関連感染防止のための活動事例の発表」では、医療生協さいたま 埼玉協同病院の高石光雄病院長ならびに社会保険滋賀病院の井上徹也血液内科・検査部部長により、衛生材料の個包装化やアルコール系手指衛生剤による手指衛生遵守率の向上プログラム、抗菌薬の適正使用に関するプログラム、今回の新型インフルエンザへの取り組みなどが紹介された。

「セッションII.新型インフルエンザ対策への取り組み」では、新型インフルエンザ対策として外島正樹先生（自治医科大学臨床感染症センター感染制御部副部長）ならびに櫻井滋先生から、両大学病院における新型インフルエンザ対策のこれまでの取り組みが紹介された。最後に両司会者、全講師により新型インフルエンザ対策を中心としてパネルディスカッションがおこなわれた。フロアからは、“給食職員が新型インフルエンザに集団罹患した場合の対処方法”などについての質疑が寄せられた。タミフル・ドライシロップの不足時の対応としての“脱カプセル”用の賦形剤としての乳糖やサージカルマスクなどの資源の枯渇や、医療を崩壊させないための1/2/3次医療圏の棲み分けなど社会全体で支えるシステム、すなわち医療全体としての事業継続計画BCP)の重要性について討議をおこなった。

●目標5：医療機器の安全な操作と管理（輸液ポンプと人工呼吸器等）

3つのテーマを設けて、各施設で取り組んでいる活動を報告しました。

＜使用者サイドから医療機器の安全を考える＞ 5題

『輸液ポンプ・シリンジポンプの実技研修計画と実際』では、研修実施時期や具体的な研修方法（内容や部屋のレイアウト等）、研修の効果をみるチェックリストの運用について、他施設でも参考にできる報告がありました。『輸液ポンプの教育と保守管理への取り組み』では、ME機器管理（医療機器管理）システムHOSMAを導入しての効果が紹介されました。『人工呼吸器の安全使用の取り組み（事故事例から）』では、院内で起きた事故事例をもとに、人工呼吸器の本質的な目的を明確にし、現場への指導や回路の検討（ディスポ製品の導入等）をおこなった経緯、『医療機器安全管理責任者の役割』では、2施設の医療機器安全管理責任者からそれぞれの活動の実際が報告されました。

＜ハードウエア（メーカー）サイドから医療機器の安全を考える＞

『医療機器の安全使用を踏まえた設計について』として、輸液・シリンジポンプについてはテルモ株式会社の西田雄先生と株式会社ジェイ・エム・エスの濱野朋之先生より、人工呼吸器については日本光電工業株式会社の鈴木亮太郎先生より、それぞれの製品説明がされました。

＜事例発表＞ 4題

4つの施設から、「輸液・シリンジポンプの安全管理」に関して、月1回の連絡会議を開催し他職種とともに活動、院内認定制度の設置、インシデントレポートに関する教育の成果、医療安全推進週間での活動、ME機器メーカーの統一とチェックリストの作成・活用等、「人工呼吸器の安全管理」に関しては、稼動中のラウンドを医師、看護師、MEでおこなっている実践例、機器使用後点検を看護師・ME同様の書式をもって実践している等、現場での取り組みが報告されました。

発表終了後、フロアから「使用基準についての実際」や「看護教育現場の現状と入職後新人看護師への教育時期」などについて投げかけがあり、最後に、目標5を達成するために作成された教育教材DVD『医療が安全であるために－医療機器の安全管理－』が紹介されました。

●目標7：事例分析から改善へ

ヒューマンエラー事象分析で重要なことは「事故の構造」を理解することである。特に、背後要因の持つ因果の構造を明らかにすることが重要である。因果の構造がわかれば事象の連鎖を切ることにより、当該ヒューマンエラー事象の発生確率を低くすることができる。

今回は、最終的にヒューマンエラーとなってしまった行動はなぜ引き起こされたのかを「心理的空間に基づく最も合理的な行動の選択」という観点から説明した。

具体的な事例を、3つを分析してもらった。

第1事例は、薬剤師が規格の異なる薬剤を最初に選択し、それが監査の薬剤師をすり抜け、看護師をすり抜け患者に注射されたインシデントを分析してもらった。

第2事例は、検査のために食事が止められたにもかかわらず、インスリンを投与してしまい、患者が低血糖状態となってしまった事例であった。低血糖状態が出現するにはどのような条件を満足させなければならないかを学習目的とした。

第3事例は、類似薬剤名のために医師が入力を間違え、それがいくつかの防護壁をすり抜けてしまった事例であった。医師のオーダーがいかに強い力をもっているのかを示したともに、以前から指摘されていた類似薬剤名が危険であることを示した事例であった。分析の基本は、なぜ誤った行為をおこなってしまったのかと、なぜ発見できなかったか、というパターンを学習することを目的とした。

参加申し込み139名であり、医療事故分析の関心の高さを示していた。

●目標8：患者・市民の医療参加

まず、4つの病院から報告をいただいた。

①坂田一美(川口市立医療センター)「名前確認で安全確保」
具体的な患者誤認事例、名前確認状況を調査するアンケート結果を紹介、今後の徹底について問題提起をいただいた。

②鈴木光子(東北公済病院)「点滴時の患者誤認防止対策」
点滴時の患者誤認防止のために工夫したカードについて、その導入の経緯や成果も含めて紹介いただいた。

③植田多恵子(姫路赤十字病院)「患者・市民と医療者をつなぐ活動」
患者さん向け講座開催、および患者への情報提供、転倒転落防止、患者誤認防止と幅広く取り組んでいる状況を紹介いただいた。

④山城博和(菊川市立総合病院)「薬薬連携とお薬手帳」
お薬手帳(かかりつけ手帳)の活用による、入院時、退院時の地域の薬局と病院との情報共有について具体的な方法を紹介いただいた。

次に、患者図書室、転倒転落防止、患者誤認防止の順に、3人のアドバイザーから【事前アンケート】(行動目標8の参加登録病院に向けて10月に実施)に記載されていたものを中心に、各施設からの疑問に答えていただく形で解説や助言をいただいた。質疑応答では、会場から図書の紛失や衛生など具体的な管理方法の質問などがあった。

①山口直比古(東邦大学医学メディアセンター)
②井上文江(飯塚病院)
③渡邊和子(栗原市立栗原中央病院)

参加者への【分科会後アンケート】では、「他施設での具体的な状況、本音が聞けた」「うちでも取り組めそう、早速実践してみたい」「悩んでいた点の解決の一端が見えた」など、分科会が取り組みの参考になったとの回答が多数あった。今後については、「もっと時間をとってほしい」、「患者や市民にも参加してもらったらどうか」などのご意見をいただいた。定員一杯の参加者があり、熱気のあふれる分科会となった。ご発表いただいた皆さま、参加くださった皆さまに感謝します。

♪ 応援コンサート報告 ♪

シンガーソングライター川江美奈子さん
共同行動応援のため2曲を熱唱

午前の全体フォーラムに、シンガーソングライターの川江美奈子さんが応援に駆けつけてくださり、ピアノの弾きがたりで「春待月夜」「LIFE」の2曲を熱唱。歌を通じて医療者への応援と医療安全の大切さを訴えてくださいました。前夜遅くまでのお仕事に加え、当日も午後、夕方とライブやラジオ出演など多忙なスケジュールをぬってのことでしたが、ご自分の入院経験をベースに共同行動へ思いをお持ちの川江さんたっての希望で実現。あいにくの電子ピアノの不調というアクシデントにもめげず、新譜「LIFE375」収録の「LIFE」の歌詞のひとことひとことは、背景に映し出された著名人からの応援メッセージと重なり“いのちをまもるパートナーズ”にとっても心にしみる音楽に聞こえ、会場は熱い拍手につつまれました。15分という短い時間でしたが、川江さんのコメントにもありましたように、医療安全の現場でも「こころのゆとり」「むすびつき」が大切であることをあらためて感じたひとときでした。

なお、川江美奈子さんは、すでにこのウェヴマガでもご報告していますように、9月に長野県諏訪中央病院で開催された“いのちをまもるパートナーズ”応援コンサートにも出演してくださいました。今後も参加登録病院における応援コンサートの活動が広がることを期待したいと思います。

参加者から

全国フォーラムに参加して ～小さな一歩から～

●埼玉県総合リハビリテーションセンター 薬剤師 鈴木 清志

秋晴れの中、11月23日に医療安全全国フォーラムが、東京ビッグサイトで開催されました。

午前は、日々医療安全に取り組む私達への応援メッセージでした。中でも、川江美奈子さんの弾き語りに癒され、ギュンター先生の特別講演では、世界の同じ目標に向かう大勢の仲間とともに頑張っていこうと、決意を新たにすることができました。

午後は、行動目標別の分科会に分かれてワークショップが開催されました。私は、目標1「危険薬の誤投与防止」、目標8「患者市民の医療参加」に参加しました。両分科会で得た成功事例や、問題点の具体的な解決策などは、当院のような慢性期の小病院でも明日から使えるものが沢山あり参考になりました。

今回のフォーラムを通じて、参加者が「医療安全」という同じ目標に向かって協力しあっている、という実感を味わうことができました。

この日私が参加したことは、医療安全にとっては小さな一歩かもしれません。しかし、小さな一歩も集まれば、大きな一歩になります。今回参加されなかった方も、ぜひ次回のフォーラムには参加してみませんか?

5 医療安全全国共同行動連絡会議が開催されました

11月23日に東京ビッグサイトで開催された医療安全全国フォーラムにおいて、連絡会議が開かれました。

この会議では、医療安全全国共同行動(以下、共同行動と略)の趣旨に賛同しキャンペーンの普及に協力している参加団体・協力団体(職能団体・学会などの80団体が参画)、及び地域における医療安全の推進役を担う推進拠点などの代表が一堂に会し、共同行動のこれまでとこれからの取り組みについて意見交換しました。

高久史麿共同行動推進会議議長のもとで会議が進行し、共同行動の進捗報告、共同行動の評価と柳田邦男氏を委員長とする評価委員会の設置などの報告のあと、参加団体・協力団体・推進拠点における活動報告と提案がなされ、これらを受けて共同行動の推進発展に向けた今後の計画が真摯に討議されました。

医療安全全国フォーラムの特別講演者であるギュンター・ヨーニッツ氏が会議を見守る中、医療安全への貴重な提言や、当フォーラムの前日に開催された「医療の質・安全学会」において参加・協力団体である全国社会保険協会連合会の「医療事故:真実説明・謝罪普及プロジェクト」が第3回「新しい医療のかたち」賞を受賞したことなどが披露され、医療安全の取り組みを広く全国に普及し、目に見える成果を達成していくための大きな礎となる会議となりました。

(医療安全全国共同行動事務局長　村川賢司)

共同行動キャンペーンポスターをご利用ください

- **医療安全全国共同行動"いのちをまもるパートナーズ"(日本版100K)**
- **行動目標別キャンペーンポスター完成見本(目標1～目標8)**
  →公開ページ…トップページ
  →パートナーズ専用ページ…トップページ
- **行動目標別キャンペーンポスター基本デザイン(目標1～目標8)**
  →パートナーズ専用ページ…トップページ

★ウェブマガジン What's on Kyodokodo は、毎週金曜日に配信します
院内にて掲示・回覧・配布等、ご活用ください

医療安全全国共同行動 "いのちをまもるパートナーズ"
ウェブマガジン What's on Kyodokodo 編集室
〒102-0082 東京都千代田区一番町13-8　一番町KKビル3階　社団法人日本病院会内
TEL. 03-6380-9370　FAX. 03-6380-9371
E-mail: secretariat@kyodokodo.jp　URL: http://kyodokodo.jp/